

錦秋の大和路

鮮やかに彩られた木々。赤や黄色そしてオレンジ色に輝く紅葉前線は、日本列島を北から南へ染めていく。遷都 1300 年を迎えた奈良を訪ねたのは 11 月の下旬であった。紅葉の時期はとっくに過ぎていと覚悟していた。しかし奈良公園周辺の紅葉の期間は長く、10 月中旬から桜やサルスベリが色付き、その後モミジやナンキンハゼなど 12 月上旬まで楽しませてくれる。

紅葉は各所に点在していた。そのなかで大仏で有名な東大寺境内の小高い丘に見事な紅葉を見つけた。そこはモミジ庭園と思えるほど一面が真っ赤に燃えていた。観光客もあまりの美しさに声をあげて歓喜した。特に外国から来た人には素晴らしいプレゼントになったようだ。

丘を登ってみると真っ赤な紅葉の中で一際目立つ木があった。それは鮮やかな黄色に輝くイチョウであった。木の根もと周辺は落ち葉が溜まり、まるで黄色いジュータンを敷き詰めているようだ。中国原産の落葉高木のイチョウは生命力が強く、古生代末期に起源をもつ長い歴史を生き延びてきた植物である。現在にあつては東京・神宮外苑、大阪・御堂筋に代表される如く日本各地で逞しく我々と共存している。



シルクロードの終着駅となった奈良。ここには古から様々な異国文化が入ってきた。歴史的宝物が保管されている正倉院をはじめ、天平文化の時代から各寺院には建造物は勿論、重要な宝物が存在する。これらはユネスコの世界遺産にも登録されているが、その中に美しい紅葉も含まれているのだ。

撮影 2010 年秋

